

テーパーダアバットメントカラーを用いた上顎無歯顎の即時荷重 医療法人 かわい・こいで歯科 理事長 小出 直弘

患者の QOL を確保するために、インプラントを埋入して直ちにテンポラリー・レストレーションが必要な場合がある。

特に上顎の前歯部の欠損を修復する場合には、何らかの方法で暫間の修復物を提供しなければならない。しかし、術直後の創面に義歯を使用するというのは、現実的には患者の QOL の確保にはつながらないと思うので、筆者は出来る限り「インプラント埋入・即時荷重」または「インプラント埋入即時・修復」で対応するようにしている。

今回は上顎の無歯顎にテーパード Screw-Vent インプラントを埋入し、テーパーダアバットメントカラーを用いてテンポラリー・レストレーションを作製し、即時荷重を行った症例を紹介する。



図 1



図 2



図 3



図 4



図 5



図 6

患者は 64 歳、女性、上下顎無歯顎である。上顎のみインプラントで固定式にしたいと希望した。

術前に SimPlant を用いて、十分に診査・診断を行い、治療計画を立案した。その結果、骨支持タイプのサージガイドを使用し、上顎に 6 本の HA インプラント（テーパード Screw-Vent MP-1）を埋入し（図 1, 2）、即日にクロスアーチでテンポラリー・レストレーションを装着することとした。

テンポラリー・レストレーションの作製手順

① テーパード Screw-Vent はインターナルのジョイント様式をもつ 2 回法インプラントであるが、テーパーダアバットメントカラーを介在することで（暫間的に）エクスターナルのジョイント様式に変換できる。カラーの高さは歯肉の厚みに応じて選択できるので、接合部を歯肉縁上に設定することができる。また、多少の埋入方向の違いも許容するので、クロスアーチでも可撤式の設計が可能となる。

② テーパーダアバットメントカラーにテンポラリーチタニウムコーピングを締結する。

③ レジンの収縮を最小限に抑えるように工夫して、6 本のテンポラリーチタニウムコーピングを口腔内で直接連結し、同時に咬合採得を行う（図 5）。

④ 技工室で調整した術者可撤式のテンポラリー・レストレーションをネジ止めし、咬合調整を行う（図 6）。

即時荷重を行うために

- ・十分な太さ・長さ・本数のインプラントを使用すること。
- ・良好な初期固定を達成すること。
- ・埋入トルク値が 45N/cm 以上あること。
- ・ISQ 値が 70 以上であること。
- ・上顎はクロスアーチで連結すること。
- ・適合の良いテンポラリー・レストレーションを作製すること。

等々の要件を満たしていることが必要であるが、筆者は「力のコントロール」を適切に行うことが最も重要なポイントであると考えている。

患者の QOL を確保するために、インプラントを埋入して直ちにテンポラリー・レストレーションが必要な場合がある。

特に上顎の前歯部の欠損を修復する場合には、何らかの方法で暫間の修復物を提供しなければならない。しかし、術直後の創面に義歯を使用するというは、現実的には患者の QOL の確保にはつながらないと思うので、筆者は出来る限り「インプラント埋入・即時荷重」または「インプラント埋入即時・修復」で対応するようにしている。

今回は上顎の無歯顎にテーパード Screw-Vent インプラントを埋入し、テーパードアバットメントカラーを用いてテンポラリー・レストレーションを作製し、即時荷重を行った症例を紹介する。



図 1

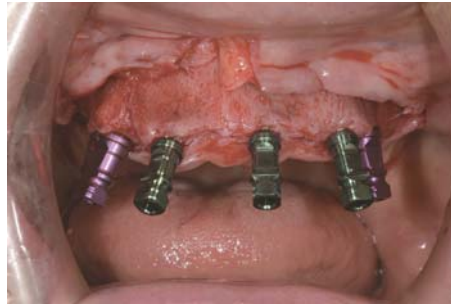


図 2



図 3



図 4



図 5



図 6

患者は 64 歳、女性、上下顎無歯顎である。上顎のみインプラントで固定式にしたいと希望した。

術前に SimPlant を用いて、十分に診査・診断を行い、治療計画を立案した。その結果、骨支持タイプのサージガイドを使用し、上顎に 6 本の HA インプラント（テーパード Screw-Vent MP-1）を埋入し（図 1, 2）、即日にクロスアーチでテンポラリー・レストレーションを装着することとした。

テンポラリー・レストレーションの作製手順

① テーパード Screw-Vent はインターナルのジョイント様式をもつ 2 回法インプラントであるが、テーパードアバットメントカラーを介在することで（暫間的に）エクスターナルのジョイント様式に変換できる。カラーの高さは歯肉の厚みに応じて選択できるので、接合部を歯肉縁上に設定することができる。また、多少の埋入方向の違いも許容するので、クロスアーチでも可撤式的设计が可能となる。

② テーパードアバットメントカラーにテンポラリーチタニウムコーピングを締結する。

③ レジンの収縮を最小限に抑えるように工夫して、6 本のテンポラリーチタニウムコーピングを口腔内で直接連結し、同時に咬合採得を行う（図 5）。

④ 技工室で調整した術者可撤式のテンポラリー・レストレーションをネジ止めし、咬合調整を行う（図 6）。

即時荷重を行うために

- 十分な太さ・長さ・本数のインプラントを使用すること。
- 良好な初期固定を達成すること。
- 埋入トルク値が 45N/cm 以上あること。
- ISQ 値が 70 以上であること。
- 上顎はクロスアーチで連結すること。
- 適合の良いテンポラリー・レストレーションを作製すること。

等々の要件を満たしていることが必要であるが、筆者は「力のコントロール」を適切に行うことが最も重要なポイントであると考えている。